

論文

豊かな表現活動のためのピアノ指導 —本学こども育成学科独自のピアノ学習プログラムの 開発へ向けて—

伊東 陽¹⁾

キーワード：ピアノ指導 保育者養成 表現 音楽教育 弾き歌い

要旨：本稿は、ピアノ初心者の学生が卒業後教育現場で必要となる能力を、2年間という限られた時間で習得するために、本学独自のピアノ学習プログラムを開発・研究することを目的とする。そのために本学の学生の現状、教育実習・就職試験での課題、非常勤講師からレッスンの様子や指導法などを調査し、今後の授業内容及び指導方針を検討した。保育者に本当に必要なピアノの技術は「演奏力」ではなく、教育現場で音楽の表現活動を行う時に、どんなことにも対応することが出来る「応用力」である。本稿では2年間で半期ずつの4回の期間に分け、それぞれの期間の到達目標とノルマを提示した。学生・教員両者が保育者に求められる「応用力」について、到達目標を明確にし、共有することで、教員は学生に対しよりきめ細かい指導やサポートが可能になり、学生も主体的に学ぶことにつながる。しかし目標やノルマにとらわれすぎず、指導者は学生が音楽を楽しむことを第一に考え、学生の音楽的経験や能力、個性に応じてそれぞれの学生の成長にとって最良の方法を常に検討することが大切であると論じた。

1. はじめに

1972年本学に幼児教育学科（現こども育成学科）が設置され、2022年で50年となる。時代は昭和、平成、令和と移り変わり、幼児教育の現場はもちろん、学生たちにも様々な変化がみられ、近年全くピアノの経験がないまま入学してくる学生も少なくない。経験者でも、ピアノに不安を抱いて入学してくる学生も多い。

我が国では長年メロディーだけでなく伴奏も同時に奏でることができ、音域・音量などの表現の幅も広いという観点から、ピアノが子どもたちの音楽表現活動を支えるために使われてきた。『幼稚園教育要領』（文部科学省、2017）、『保育所保育指針』（厚生労働省、2017）どちらも表現の項目において「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりするなど楽しさを味わう」とあり、本学でもピアノは必須科目である。短期大学での2年という限られた時間の間に、幼児についての様々な知識、保育に関する技術を身に付け、実習を行いながら、ピアノの技術も身に付けることは容易ではない。しかし卒業後、すぐ現場では1人の先生として、子どもたちと接しなければならない。

¹⁾ 山陽学園短期大学こども育成学科

筆者は2021年度、本学こども育成学科に着任した。本稿は本学科の音楽科目を統括する立場として、「保育者にとって本当に必要なピアノの技術」を明確にし、入学時初心者だった学生が、卒業後すぐに現場でピアノを使った音楽表現活動が出来るよう、本学独自のピアノ学習プログラムを開発することを目的とする。今後プログラムの到達目標を学生・非常勤講師を含めた教員全員が明確にし、共有していくことで、教員は学生に対しよりきめ細かい指導やサポートが可能になり、学生も主体的に学ぶことにつながる。

ピアノ学習プログラム開発にあたり、1年生の入学時の学生アンケート、オンライン授業期間のレポートを参考にした本学の学生の現状の分析と、教育実習の様子、岡山県内の公立・私立の幼稚園保育園職員採用試験での課題、非常勤講師からのレッスンの様子や指導方針を調査し、検討を加えていく。これまでも保育者養成におけるピアノ指導については、さまざまな先行研究が行われており、近年再課程認定を見据え論文も増加傾向にある。しかし辻（2019, pp. 1）の言うように、「その多くは『授業報告』や『学習内容』『教材研究』についてで、ピアノを指導する教員についての専門性などについて論じているものは少ない。」平野（2021, pp. 49）が、「保育としてのピアノの可能性の再検討とともに『保育者にとって本当に必要なピアノ演奏力』がどこに集約させるのかを見極め、多様化している保育現場の音楽活動の実態を踏まえた柔軟で弾力性のあるディプロマ・ポリシーを定めること、それを体現するための確固たるカリキュラム・ポリシーを成熟させることが真に問われる時代になったといえよう。」と述べているように、学生の現状を見極めたうえで、学生・指導教員両者への到達目標を明確にしたピアノ学習プログラムを開発することは、今後のどの養成校にも求められることではあるが、まだ多くの養成校は従来のやり方での指導を行っているため、新規性の高い研究と言える。

2. 調査とその結果の分析

(1) 本学学生の現状

図1. 2021年入学生の入学時の
ピアノ経験年数

■未経験 ■1年未満 ■1年～3年 ■3年以上

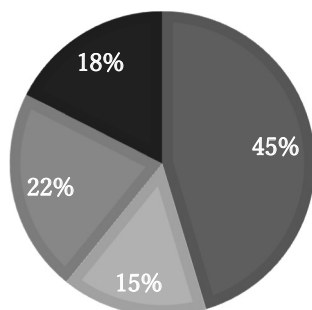
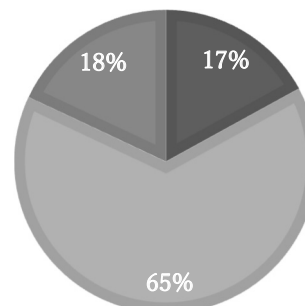


図2. 現在楽譜を読むことが

■出来ない ■少しできる ■出来る



2021年入学生の45%の学生がピアノ未経験である。1年未満は、大学入学が決まってからピアノ教室へ行った学生、高校の選択授業で少しピアノを習ったという学生がほとんどのため、約60%の学生がピアノ初心者と言ってよい。(図1) また経験年数が1～3年と

いう学生の多くは、小学校の習い事などとしてピアノ教室へ通った学生のため、ブランクがあり、ピアノの経験はないが音楽系の部活の経験があり、楽譜を読むことが出来ると答えた学生も数名いたが、楽譜をきちんと読むことが出来ないと思っている学生が全体 80% 以上いる。(図 2)

授業は 1 コマ 90 分の授業時間中に、教員 1 人が 3~5 人の学生を個人レッスン行う。前期・後期合わせて 30 回。2021 年度は新型コロナの影響で密になるのを避けるため、すべての個人レッスンで行われた。レッスン時間は 1 人約 25 分で、その他の学生は待ち時間は練習室で個人練習をする。本学はレッスン室の他に練習室も多数あるので、ローテーションをうまく組むことが出来れば、90 分の間ずっとピアノに触れながら、予習復習することができ、学習効果も高い。(練習室が不足しているため、授業時間中レッスン時以外ピアノに触れることができない大学もある。)

試験は前期・後期 15 回目の授業の際、成果発表会という形で、クラスごと 1 人 1 人全員の前で発表を行った。課題は、本年度はこれまでと同じとし、1 年生はソロの曲 1 曲、弾き歌い 1 曲の合計 2 曲、2 年生は弾き歌い 2 曲であった。なお、本学には長期履修制度利用し、ゆとりをもって学ぶ 3 年コースもあるが、3 年間で 2 年分の授業を履修するということで従来の 2 年コースと同じく、2 年間でピアノの授業は終わる。

図 3. 入学時、家にピアノが

- ある (アコースティック・電子ピアノ)
- ある (キーボード)
- ない

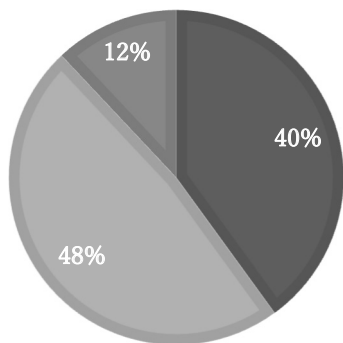
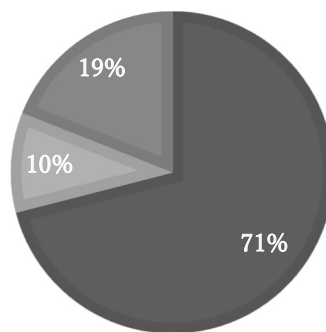


図 4. 自宅にてオンラインレッスンを受けることが

- 出来る
- 出来ない
- わからない



2021 年入学生のうち、家にアコースティック・電子ピアノがある学生は 40%、キーボードがある学生は 48%、合計 88% の学生が家に楽器があることが分かった。(図 3) 2021 年度は新型コロナの影響で 5 月から 6 月上旬、9 月末から 10 月初旬が全学部でオンライン授業期間になってしまい、対面レッスンの代わりに、レポート提出や筆者が YouTube で参考動画をアップし、それを見て自主練習し、対面授業再開後各担当教員に練習の成果の確認をお願いした。71% の学生がオンラインレッスンを受講することが可能との回答があり (図 4)、今後再び対面授業が出来なくなった場合でも、学びを止めないためにもリアルタイムオンラインレッスンの可能性も探っていきたい。

図5. 今難しさを感じていることは？（複数回答可）

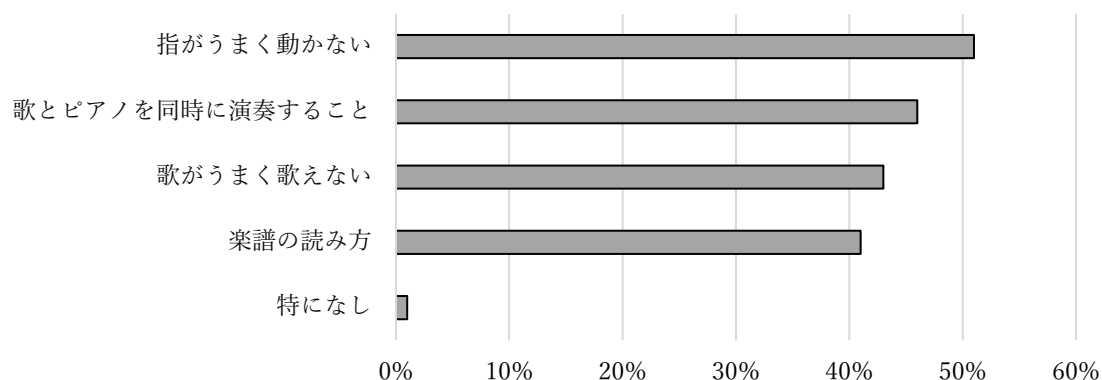


図5は2021年後期第1回目のオンラインレポートによる結果である。入学時初心者だった学生もピアノを始めて約半年後、まだ指が思うように動かないと回答した学生が半数以上いた。日常生活において、なかなか4番（薬指）と5番（小指）の指を動かすということはないが、ピアノは右左合わせて10本の指を効率良く使わなければならないので、そこに難しさを感じているようである。初心者に限らず、多くの学生が弾き歌いをするのは、大学入学後から始めたことなので、大きな声で歌うこと、歌うこととピアノを同時に演奏することに難しさを感じている。楽譜も少しずつ読めるようになってはいるがへ音記号など楽譜を読むのが難しいとの回答も40%以上いた。

図6. 卒業までに身に付けたいピアノの技術は？（複数回答可）

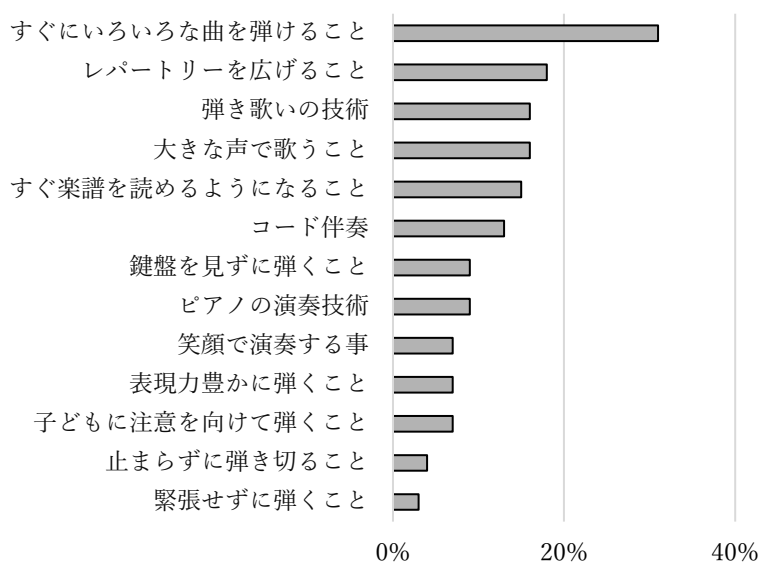


図6も後期第1回目のオンラインレポートの回答である。すべての項目が卒業後、弾き歌いの際に大事なことである。この回答は学生自身が身に付けたいと思う技術ということで、カリキュラム開発に大いに役立つ。無回答の学生が全くいなかったことから、初心者を含め、すべての学生たちが前向きにピアノに対して前向きに取り組もうとする姿勢が感じられる。

(2) 教育実習・採用試験に見る、卒業後に求められるピアノの技術

幼稚園・保育園で最も求められるピアノの技術は弾き歌いの技術である。教育実習において、事前に課題としている園が多い。2021 年度は新型コロナの影響で幼稚園実習も保育所実習もほとんどの学生が学内演習になってしまった。表 1 は 2019 年に本学学生が幼稚園実習において弾き歌いの課題として課された曲目である。

表 1. 2019 年度幼稚園実習弾き歌い課題 (数字は園の数)

あめふりくまのこ	8	しゃぼん玉	7	かえるの合唱	6
かたつむり	6	とけいのうた	5	にじ	5
大きなふるどけい	4	はをみがきましょう	4	あめ	3
おかえりのうた	3	おべんとう	3	あさのうた	2
アヴェ・マリア	2	おはようのうた	2	おはようのうた	2
ことりたちは	2	ことりのうた	2	世界中のこどもたちが	2
ぱらぱらおちる	2	あまだれぼったん	1	カレーライスのうた	1
今日も一日ありがとう	1	くじらのとけい	1	食事の祈り	1
つばめになって	1	天使の声	1	ともだちさんか	1
ながくつマーチ	1	にじのむこうに	1	ニヤニョの天気予報	1
バスごっこ	1	パプリカ	1	ホホホ	1
マリア様の月	1	マリア様の心	1	めだかの学校	1
山のワルツ	1	夢をかなえてドラえもん	1		

本学における幼稚園実習は 5 月から 6 月にかけて行われたので、梅雨の季節に歌われる歌が多い印象がある。日頃から季節ごとの歌は練習しておくべきである。そのほか日常生活の中で毎日歌われる歌、あいさつの歌などは園によって曲目は違うが必ず歌われるので、多くのレパートリーを持つべきである。またキリスト教系の幼稚園において、お祈りなどで歌われる曲はあまり馴染みがないので、その園ごとの特色に対応できるよう、楽譜をもらってすぐにピアノを弾ける技術はとても大切である。

岡山県には 15 市、10 町、2 村があるが、小さい自治体は毎年保育者・幼稚園教諭の募集があるわけではない。2021 年度は 15 市の中で 6 市の職員採用試験の 2 次試験においてピアノの課題があった。岡山市は①ヤンチャリカ②小さい秋みつけた③手のひらを太陽にの 3 曲の弾き歌いの準備し、当日指定された 1 曲を演奏する、伴奏の編曲・調性は自由であった。

また本学の来年度就職予定の学生のうち 27% の学生が、採用試験において弾き歌いの課題があった。内容は岡山市の採用試験と同様に 3 曲を準備して、当日 1 曲演奏する、もしくは 1 曲自由曲を演奏するというものであった。

どの自治体も私立保育園も採用試験において、曲目の指定はあるが、楽譜などの指定はなかった。ということは、それぞれの受験者の音域やレベルに合った楽譜や編曲を選び、ピアノの技術だけではなく、大きな声で生き生きと演奏し、今後子どもたちと一緒に音楽を楽しむことが出来るということアピールすることが、なにより大切である。

(3) 非常勤講師へのアンケート

2021年度、7名の非常勤講師にピアノのレッスンを担当していただいた。著者は本年度から着任したため、シラバスや試験内容の説明は前期第1回の授業前にミーティングを開き、説明したが、レッスンの内容や進め方は、各講師にお任せした。本来ならば各講師に本学のこれまでの授業の進め方や、日頃の担当いただいている学生の様子などを直接ご教授いただきたかったが、新型コロナの影響で難しかった。そこで、各講師にこれまでの指導のご経験などについてアンケートを実施した。すべての講師がピアノ指導経験豊富で、本学で30年以上指導してくださる方も数名いる。以下は、ピアノ学習プログラム開発に特に参考になった回答の抜粋である。

①本学でのピアノレッスンにおいて、ピアノ未経験者には何の教材を用い、どのように指導していますか？

- ・バイエル7番までを使い、音符の長さなど簡単な楽譜の読み方、指使いなどを教える。
- ・こどものうた 200・続こどものうた 200などに載っている簡単な歌（ちょうちょ、ぶんぶんぶん、むすんでひらいてなど）をハ長調で右手メロディー、左手はスリーコードで伴奏をつける。
- ・簡単に弾ける弾き歌いの楽譜を用い、メロディーを知っている曲から練習を始め、最初から右手を弾きながら歌う練習をする。左手も単音→2音→和音のように音を増やす

すべての教員がバイエルを使うという回答だった。ピアノ初心者にはさまざまな教則本があるが、採用試験でバイエルが課題とされることも多いし、楽譜も安価で高校の選択授業でバイエルを使っていた学生も多いことから、バイエルは妥当である。また、こどものうた 200・続こどものうた 200も多くの教育現場で使われていて、本学でも今年度は全員に購入させた。バイエルやこどもうたを併用しながら、各教員が工夫して指導していることがうかがえる。

②本学のピアノレッスンにおいて、ピアノ初級者（ピアノ歴1～3年程度、バイエル修了程度まで）の学生には、何の教材を用い、どのように指導していますか？

- ・バイエル100番まで抜粋で進める。
- ・ほぼバイエルが終了したら、ブルグミュラー25の練習曲の1～5番あたりを併用する
- ・バイエルの他にブルグミュラー、ギロック、湯山昭、キャサリン・ロリンなどのピアノ曲を併用する。
- ・季節の歌、毎日の園生活で歌う歌の弾き歌いをコード伴奏で練習させる。
- ・ハ長調・ト長調など、ハ長調以外の弾き歌いの練習をさせる。

多くの教員が限られた時間の中で、バイエルを全曲終えるのは難しいため、抜粋で最後まで進め、ブルグミュラー25の練習曲へ進むよう指導している。ブルグミュラーも採用試験において、ピアノの自由曲として演奏されることが多い。筆者が今年度の始めのミーティングで、コード伴奏を初心者から積極的に取り入れるようお願いしたので、弾き歌いはコード伴奏で指導するという回答が多く見られた。

③音楽ⅡA終了時(1年生終了時)までにすべての学生に身に付けさせたい、ピアノ・弾き歌いの技術は何ですか？

- ・スリーコードがある程度弾けること
- ・とにかく声を出して歌うこと
- ・音符・強弱などの基本的な楽譜の読み方、譜読みの基本と正確性を身に付けさせる。
- ・実習先で課題になることが多い曲を1曲でも多く練習しておくこと。
- ・音楽に合わせて楽しく歌えるようになること。

ほとんどの学生が大学入学時まで弾き歌いの経験がないので、ピアノを弾きながら、歌を歌うことが苦手である。スリーコードを理解し、コード伴奏で大きな声で歌うという、弾き歌いの基礎を身に付け、2年時にある実習へ向け準備を進めたいと考えていることがうかがえる。

④音楽ⅡB終了時(2年生終了時)までにすべての学生に身に付けさせたい、ピアノ・弾き歌いの技術は何ですか？

- ・自分の知らない曲でも譜読みが1人で出来、伴奏も簡単なアレンジが出来ること。
- ・たとえ間違っても物怖じせず、演奏を通す力。
- ・自分自身が音楽を楽しみ、子どもたちを意識して演奏すること。

すべての教員が「1人で楽譜をきちんと読み、演奏できるようになること」と回答があった。また1年次に身に付けた演奏力を基に、音楽を子どもたちと楽しむ表現力を身に付けさせたいと考えていることがわかる。

⑤最近の学生と以前の学生の違いなどでお気づきの点はありますか？

- ・声を出すことを躊躇する学生が多い。そのためか、音程を取るのが苦手な学生が多い。
- ・ほとんどの学生がアルバイトで忙しく、練習時間の確保が出来ていない。
- ・「出来ない」とあきらめてしまう子が増えた。
- ・ピアノの経験のない学生が増えた。
- ・男子も女子もやさしく素直。
- ・自己主張は弱い、真面目な学生が多い。

本稿「2-(1)本学学生の現状」でも明らかになったように、ピアノの経験がない学生が増えたと感じている教員が多い。その上、アルバイトなどでなかなか練習時間の確保が難しい、自分に自信がない学生が増えたと感じている。マイナスな意見もあるが、共学化によ

って入学してきた男子が素直だという意見や、真面目な学生が多いなどのポジティブな意見もあった。

⑥保育者・幼稚園教諭にとって、1番大切だと思う音楽の技術は何とと思いますか？

- ・音楽を園児と一緒に楽しむこと。
- ・読譜力、表現力、コード、演奏力。
- ・初めての曲も自力で弾けるための読譜力、左手の伴奏を適宜、弾きやすく変えられる技術。
- ・音楽の流れを止めない技術と先生自身が音楽を楽しむ心。
- ・さまざまな場面における対応力と判断力
- ・上手く弾くことも重要だが、明るく、元気よく、楽しんで歌ったり、弾くこと。園児はそのことを敏感に感じ取るはずである。

近年の保育者養成課程についての先行研究においても、保育者に求められるピアノの技術は、ピアニストのような高度「演奏力」ではなく、上記のような、弾き歌いを中心とし、子どもたちの毎日の生活や音楽表現活動において子どもたちに寄り添ってピアノを弾くことができる「応用力」である。と論じられているものが多い。(吉村, 2012、金井, 2018、田中, 2018) 特にピアノ初心者で苦手意識がある学生には、この技術に丁寧に説明をしながら指導をしていくべきであるし、指導者も常にこの「応用力」について理解しておかなければならない。

⑦保育者・幼稚園教諭養成課程におけるピアノ指導の意義・モットーは何とと思いますか？

- ・幼児に楽しく指導できる保育者を育成する
- ・園児と音楽を楽しめる保育者を育成する。さまざまな場面に対応できる表現力。
- ・子どもに音楽の楽しさを伝えられることが出来る学生を育てること。
- ・保育現場や幼児の活動を想定しながら、音楽と表現に関する基礎的なピアノの技術を習得させること。
- ・保育の現場で音楽表現の楽しさを伝える為に、読譜力、表現力、演奏力を身に付けること。
- ・「音楽は楽しむもの」ということを常に学生と感じ、学生の指導を通し、自分自身（指導者）も学んでいる。
- ・子どもたちの表現活動や情感を育てるために手助けとなるよう、子どもたちに即対応できる柔軟性のある音楽性を育てること。

すべての教員が音楽を楽しむものと考えている。⑥と共通するが、ピアノの演奏技術について目標を明確にし、学生が保育者となった時、子どもたちと音楽を楽しむために、弾き歌い・ピアノの技術を向上させるという意識を常に全教員で確認していくことが今後さらに必要であるといえる。

3. 本学こども育成学科独自のピアノ学習プログラム

本学では 2021 年度音楽ⅡA・ⅡB という本稿で扱っているピアノのレッスンの他に、音楽Ⅰ（理論、1 年生半期 15 回）、音楽Ⅲ（合唱、2 年生半期 15 回）が音楽関連の授業として開講されている。今後カリキュラム変更に伴い、授業の名称や内容に若干の変更はあるかもしれないが、2 年間（3 年コースは 3 年間）の間における音楽関連すべての到達目標を

「保育者として必要な音楽の知識・技術を身に付け、音楽を愛し、子どもたちへ音楽の楽しさ、表現する喜びを伝えられる保育者になること」

と定め、各教科この目標へ向けて、身に付けたい知識や技術を明確にしたい。

ピアノ学習プログラムの卒業までに身に付けたいピアノの技術を、以下の 5 項目とする。

- ①初めての曲も自力で弾くことの出来る読譜力・演奏力
- ②季節の歌、行事の歌、童謡、生活の中で歌われる歌などの弾き歌いのレパートリーが多くあること
- ③音楽の流れを止めず弾き通す技術と、子どもたちの表情や動きをすぐに判断し対応できる応用力
- ④コードの知識と、伴奏を自分でつけたり、簡単にアレンジ出来ること
- ⑤大きな声で歌い、子どもたちに寄り添った演奏が出来ること

続いて初心者の 2 年間のピアノ学習プログラムを策定する。

表 2. ピアノ学習プログラム（初心者用）

1 年生 前期	
目標①ピアノの演奏のための基礎を身に付ける	
指導内容	・ 音符・休符の長さ・音の高さなど基礎的な楽譜の読み方
	・ 指使い・両手で弾くことに慣れる
	・ 大譜表を読めるようになる（特にへ音記号）
目標②弾き歌いの基礎を身に付ける	
指導内容	・ スリーコードについて
	・ ポジション移動の少ない、ハ長調の童謡を右手メロディー、左手はコード伴奏で演奏する。片手ずつ練習の際も歌いながら弾く
課題 (目安)	①バイエル 1 番から 69 番まで抜粋し、10 曲以上（ハ長調の右手ト音記号、左手へ音記号の大譜表を読めるにすること）
	②「ちょうちょ」「ぶんぶんぶん」などハ長調の童謡を左手スリーコードの伴奏で 5 曲以上
試験	ソロ 1 曲、弾き歌い 1 曲（暗譜の必要なし、2 曲合わせて 3 分以内）
1 年生 後期	

伊東：豊かな表現活動のためのピアノ指導

目標①基礎的なピアノ技術の向上	
指導内容	・簡単な曲は1人で楽譜を読む
	・楽語などの意味を理解し、表情豊かに演奏する
	・曲の形式などを理解し、効率の良い練習を考える
目標②弾き歌いの技術の向上	
指導内容	・ハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調のスリーコードを理解する
	・ポジション移動がある歌の弾き歌いの練習
	・季節の歌、あいさつの歌など多くの曲に慣れる
課題 (目安)	①バイエル70番以降106番まで抜粋し、5曲以上、ブルグミュラー25の練習曲より1曲以上
	②16小節程度までの短めの子どもの歌5曲以上
試験	ソロ1曲、弾き歌い1曲（暗譜の必要なし、2曲合わせて3分以内）
2年生前期	
目標①弾き歌いのレパートリーを増やす	
指導内容	・季節の歌、あいさつの歌の他、日常生活で歌われる歌、行事の歌などを練習する
	・短い期間で1曲を仕上げるために、伴奏が複雑な場合は簡単にアレンジするなど工夫する
	・前奏や曲の最後をアレンジして、子どもたちが楽しく歌えるよう工夫する
目標②現場を想定した弾き方を身に付ける	
指導内容	・教育実習へ向け、子どもたちと歌うことを想定した、弾き歌いの練習をする
	・ソロ課題・初見演奏を含む、それぞれの就職試験の課題の練習
課題 (目安)	幼稚園実習の課題曲を中心に、現場で良く歌われる子どもの歌を10曲以上
試験	弾き歌い2曲（暗譜の必要なし、1曲あたり16小節以下のものは2番まで歌うこと）
2年生 後期	
目標①各学生、自分なりの弾き歌いの習得方法を確立する	
指導内容	・歌詞の意味を理解し、その曲に合ったテンポ・表現方法を考える
	・人前でも緊張せず、集中力を持って、音楽を弾き切る練習
	・子どもたちの様子や、表情の変化に対応できるように余裕を持って弾く練習

課題 (目安)	・ハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調の子どもの歌をバランスよく10曲以上
試験	弾き歌い2曲（暗譜の必要なし、1曲あたり16小節以下のものは2番まで歌うこと）

表2はピアノ初心者の学生の2年間の学習プログラムである。楽譜の読み方、ピアノの基本的な演奏方法から学び、2年間の間にバイエルを最後まで、ブルグミュラー数曲、すべてが楽譜通りではなくコード伴奏なども取り入れながら弾き歌いのレパートリーを最低30曲習得することを目標とする。これは教育実習・採用試験で求められる基礎的レベルである。しかしあくまでこれは目安であって、ノルマのように縛られ過ぎると、到達目標に掲げた「音楽を愛する心、楽しむ心」を失ってしまう危険性がある。したがって、これは学生が自分の上達や進捗を計る目安にとどめ、学生・教員が常に相談しながら、1人ひとりの個性に合った進捗で進めるべきである。レパートリーの数やレベルの設定に関する自由度が高いが、上記の卒業までに身に付けたい5つの技術の習得を第一に学生・教員も取り組まなければならない。

4. 今後の課題

(1) 評価のポイント

現在、ピアノの経験年数や試験時の曲の難易度だけで評価が決まると思っている学生も多くいる。今後は到達目標として定めた「保育者として必要な音楽の知識・技術を身に付け、音楽を愛し、子どもたちへ音楽の楽しさ、表現する喜びを伝えられる保育者になること」に向けての日頃の取り組みや、試験での発表において表情豊かに演奏することが出来たか？弾き歌いにおいては、大きな声で歌うことが出来たか？などを総合的に判断すべきである。初心者でもピアノ学習プログラムのもと、自分自身で上達を感じられ、学習意欲が向上し、良い評価を受けるような評価基準をさらに検討する必要がある。

(2) 中級以上の学生への対応

ブルグミュラー修了程度、ソナチネアルバム以上に取り組む中級以上の学生に対しても、到達目標や卒業までに身に付けさせたい5つの技術に関しては変わらない。またピアノソロの技術はあっても、弾き歌いに関しては経験が浅いことがほとんどなので、右手のメロディーしか書かれているような楽譜でも、左手は簡単な伴奏付けをする技術や、楽譜を簡単にアレンジして、出来るだけ早く曲を弾けるような技術を身に付けるようなレッスンを展開しなければならない。またアニメソングや流行歌などにも挑戦し、子どもたちの興味関心をさらに引くなど、ピアノが得意と就職活動などでアピール出来るよう、さらにピアノの演奏力を伸長させたい。

(3) ICTの活用

2020年から続く新型コロナウイルスの影響で、岡山県において緊急事態宣言が発令された場合、本学科のピアノレッスンはすべて休講となり、その分をレポート提出や後日補講という形で補ってきた。しかしピアノは習慣的に弾く機会を持たなければ、なかなか上達

もしないし、特に初心者は楽譜の読み方やピアノの奏法に関し、定期的に指導者にチェックを受けないとピアノへのモチベーションの維持も難しく、また間違いに気づかぬまま練習を続け、直すことに労力を使わなければならないことも多い。他大学では、Zoomなどのソフトを使った、リアルタイムオンラインレッスンを取り入れているところもある。図4にあったように、2021年度入学生の71%が入学時にオンラインレッスンを受講することが可能と答えた。その後、他の授業などでオンライン授業等もあった経験を経て、この割合は現在上がっていると推測される。しかしピアノ指導教員の半数以上がこれまでにリアルタイムオンラインレッスンの経験がない。自宅にピアノがない学生には、授業で使っていないキーボードを貸し出す、オンラインレッスンの経験がない教員へは筆者が接続方法等を説明する、本学H館1階ピアノ室のWifiを接続可能にするなどの問題がクリアできれば、リアルタイムオンラインレッスンの可能性も出てくる。

また2021年度、筆者は学生の自主練習のために、バイエル7曲、弾き歌いの子どもの歌20曲をYou Tubeへアップした。初心者にもわかりやすいよう、1曲につき右手、左手、両手の動画をそれぞれ撮影し、練習の方法なども加えた。アップした動画は80本以上に上る。学生のピアノ技術の向上のためにも、ICTの活用は今後ますます重要視されていく。

(4) 目標の共有化・コミュニケーション

今回の調査ですべての教員が保育者養成課程におけるピアノ指導において「演奏力」ではなく「応用力」を身に付けることを第一に考えていることが分かった。今後教員間で指導の内容やテキストなどの指導方法などについても定期的に情報共有を行い、指導力をさらに向上させなければならない。またピアノのレッスンは本学科の授業の中で最も少人数で行われる授業と言っても過言ではない。学生と教員が良好なコミュニケーションをとり、音楽の楽しさをお互いに感じながらレッスンを展開し、教員は1人ひとりの個性に合わせた指導を常に考えなければならない。

試験ではクラス全員と全教員の前で演奏を発表しているが、これはこども育成学科のポリシーに「確かな実践力を養う」とあるように、教育実習や卒業後現場を想定した実践の場として有効である。学生は新しい曲を知るきっかけになったり、仲間も同じ夢に向かって頑張る姿を見て、さらに向上心が生まれている。現在はコロナ禍のためすべて個人レッスンで行っているが、今後定期的にグループ発表やグループレッスンなども取り入れ、実践練習を大切にしていきたい。

5. 終わりに

本学科は本学の教育理念「愛と奉仕」のもと、これまで多くの保育者・幼稚園教諭を輩出してきた。筆者も実習指導で保育園を巡回した際、多くの卒業生に出会い、現場で活躍している様子を見た。本学に愛情を持ち、卒業生としての誇りを胸に仕事をしている印象を受けた。今後も「保育士になりたい」と夢を抱いて入学してきた学生たちを、全教員全力でサポートしながら、ピアノ学習プログラムで保育者に必要なピアノの技術を身に付けさせ、自信を持って山陽学園大学こども育成学科の卒業生として送り出したい。このピアノ教育プログラムのもと授業を展開し、学生のピアノ演奏力にどのような伸長が見られた

かを引き続き検証していく。教員間で意見を出し合い、さまざまな問題点や変化に対応しプログラムを常により良いものになるよう更新する。

他の音楽科目との連携を図りながら、学生・教員に関わらずすべての者が音楽を愛し、楽しむ心を忘れず、教員同士、学生と教員、学生同士それぞれ音楽を通し信頼関係を築いていくことが、目標到達へ最も大切である。

6. 謝辞

本研究は、山陽学園大学・短期大学学内研究補助金・教育改革（令和 3 年）を受けて遂行することが出来た。深く感謝申し上げます。

引用参考文献

- 久保田慶一・渡辺行野（2019）『めざせ！保育士・幼稚園教諭—音楽力向上でキャリアアップ』 株式会社スタイルノート
- 山本学（2019）『子どもの歌でいつのまにか上達する 保育者になるためのピアノ教本』 エイデル研究所
- 深見友紀子（2018）『保育所・こども園・幼稚園採用試験へ向けて みんなが知りたい！「音楽実技」対策』 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス出版部
- 文部科学省（2017 告示）幼稚園教育要領
- 厚生労働省（2017 告示）保育所保育指針
- 標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
- ブルグミュラー 25 の練習曲 全音楽譜出版社
- 平野浩由（2021）「保育者養成課程におけるピアノ実技科目の諸課」常葉大学保育学部『常葉大学保健学部紀要』第 8 号 pp. 49-60.
- 辻陽子・伊東陽・安久津太一（2019）「保育者養成課程におけるピアノ指導の意義-最近 10 年間の研究動向を通して-」岡山県立大学『岡山県立大学教育研究紀要第 4 巻 1 号』pp. 1-10.
- 田中節男（2018）「幼児教育学科におけるピアノ教育の方法試論」山陽学園大学・山陽学園短期大学『山陽論叢』第 25 巻 pp. 231-243.
- 金井玲子（2018）「保育者養成課程におけるピアノ指導-こどもの表現活動を活性化させるピアノの活用とその指導法-」浦和大学・浦和大学短期大学部『浦和論叢』第 58 巻 pp. 121-135.
- 吉村淳子（2012）「保育者養成におけるピアノ教育についての試み-学生へのアンケート調査から-」新見公立大学『新見公立大学紀要』第 33 巻 pp. 87-92

